



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.37

毎月1日号に掲載

からは1日約18万トンの工業用水を配水して売上げは20億円、経費は11億円、差引き9億円の黒字だ。対して河口堰からはわずか5万トンを配水して売上げは7億円、経費は11億円、差引き4億円の赤字である。

大赤字の芦田川河口堰

福山市上下水道局には3つの事業がある。水道事業と下水道事業と工業用下水道事業だ。それぞれ別会計であり、水道事業は400億円、下水道事業は1000億円を超える事業債(借金)を抱えている。今後は老朽管の更新等に多額の費用が見込まれるうえに人口減少社会も到来し、経営状況は非常に厳しい。特に下水道は一般会計から赤字補填として約10億円の繰入金が無いとやっつけいけず、やむを得ず来年度から16・6%の使用料値上げとなる。

ところが工業用水道は平成25年度の単年度黒字が5億円を超え、事業債は33億円あるが内部留保資金は44億円もあり、実質的な無借金経営である。私はこの良い時にこそ将来に向けた投資をするべきと提案している。実は工業用水道の配水は①中津原系と②河口堰系の2系統に分かれている。中津原

中津原と河口堰を合算して5億円の赤字というわけだ。この収支状況は私が上下水道局に資料要求したデータを基に独自に分析したものだ。民間の企業経営者なら迷わず中津原から全量配水を考えることと思つ。さらに河口堰は耐震補強工事の必要性もあり、水道と同様に将来的に老朽管の更新に多額の資金が必要となる見込みである。

完成から40年経過した河口堰もそろそろ運用を見直す時期が来たのではないか。私はまず耐震補強工事に合わせて、より環境に配慮したゲートに改修するべきと考えている。お手本は4種類の魚道を整備し、上下に可動するゲートを持つ長良川河口堰だ。さらに中津原から1日20万トン配水可能に改修し、JFEにもより節水を依頼して、その分工業用水の単価を下げるのも一案。河口堰は塩害防止と渇水期のバックアップとしてのみ、その機能を発揮すれば良い。